

講演会型、体験活動参加型、在宅取組型(小学校)

学校名等	安八町立牧小学校
実施日時	H30.5/15・6/4・10/30・12/11・冬休み期間・H31.1/22
会場	安八町立牧小学校
参加人数	13名
学習課題(分野)	子育て・親子のふれあい
運営者の願い	『子どもに笑顔と元気』をテーマに活動を計画しました。今年度も親子の絆をより深められるような内容になればと考え、親子での体験活動や取組を行いました。冬休み期間には、在宅取組としてふれあい週間を設けました。活動を通じて笑顔が見られればよいです。

学 習 の 内 容

<開級式・講話>

校長先生より、「子どもに笑顔と元気を！」をテーマに講話をしていただいた。笑顔と元気の源は、自己肯定感・自己有用感であり、それを育むための親の姿勢について学んだ。



<給食参観及び試食会・食に関する講演会・救急法講習会>

給食センターより岡田先生をお迎えし、「食に関する講話」と給食試食会を行った。朝食や栄養バランスの大切さについて改めて学ぶことができた。また、大垣消防署東分署の方より、救急救命法の人工呼吸・心臓マッサージ・AEDの使い方・対処の仕方を中心に体験しながら教えていただいた。



<親子でリトミック>

リトミック協会の浅野先生を講師にお迎えし、親子でリトミック体験をした。音楽に合わせて走ったり、親子いっしょに体を動かしたりして、楽しい時間を過ごすことができ、親子でたっぷりふれ合うことができた。



<親子でクッキング>

給食センターの岡田先生を講師にお迎えし、親子でクッキングを楽しんだ。簡単に親子いっしょに楽しみながら作ることができた。子ども達が包丁を使えること、協力して作業できることなど、その成長ぶりも実感できた。



<「ハグキャンペーン」>

ハグ週間を通して、親子でふれあう時間をもつことができた。子ども達の笑顔は、保護者の元気の源でもある。「下の子ばかりにギュッとすることが多かったかな。」「頭をなでるとうれしそうだったな。」などと、日常の慌ただしさの中で気づけなかったことを意識できた。ハグすることで、親子ともどもゆとりがもてます。この機会を通して、ハグの力をあらためて実感することができた。

<ポーセラーツ教室・閉級式>

衣斐先生を講師にお迎えし、ポーセラーツ教室を行った。イラストを選び、白い皿などに配置し作品づくりをした。保護者同士、会話を楽しみながら作業ができた。家庭教育学級閉級式では、子ども達は、この1年間で学校生活にも慣れて大きく成長できたこと、保護者同士の親交を深めることもできた。



【講話】

子どもの話をじっくりと聞くこと、愛情を注ぎつつ、甘やかすことのないようになど、子育ては、親としての自分自身を育てることだと気付くことができた。「子育てを楽しみながら行っていきたいです。」などの前向きな感想をもつことができた。



「ハグキャンペーン」

在宅でのハグ週間運動を通して、日頃のふれあいの姿を見直し、温かいこふれあいのできる親子をめざすことを確認し合うことができた。

【感想より】

「ひざの上の上のってギュッとされると、とてもうれしです。」「ギュッとすると温かく、気持ちが落ち着きます。毎日ハグする時間を持ちたいです。」



本校は、1年生の保護者対象の家庭教育学級を展開している。家庭教育への興味関心が高く、参加率も高い。

前年度の引き継ぎをもとに、学校行事なども考慮して、保護者が参加しやすいものになっている。また、できるだけ無理のないように、他の行事と重ね合わせて日程を組んでいるので、負担感が少なく、家庭での親子のふれ合いにつながられる内容となっている。

